



埼玉
県立

小児医療センターだより



子どもたちの笑顔のために 社会として子育てを支える時代

病院長 おか 明

当センターのあるさいたま新都心では、週末になると子どもを連れた家族連れが数多く訪れ、大変な賑わいとなります。生まれたばかりの赤ちゃんを連れた初々しいご夫婦、元気いっぱい走り回っている幼児さんとそれを追いかける親御さん、いろいろとおねだりしている子ども、なかなか言うことを聞いてくれない子どもをしかる親御さんも必ずいます。もう少し大きな子どもたちは友達同士で何やらはしゃいで楽しそうです。とにかく、子どもがいて街は賑やかです。私は、頭の上から出てきている様な子どもたちの高い声が大好きです。また、しかられてべそをかいている声や、赤ちゃんが甘い泣き声で何かを訴えている様子も、きっとこういう気持ちなのだろうといういろいろ想像しながら聞いています。そしてそうした子連れの若い親御さんを応援したい気持ちになります。

こうした子どもたちの声が街にあふれる光景も、少子化の中で珍しくなっているのかもしれませんが、幸福な時間ですので残念なことです。

少子化は、先進国全てに共通する特徴で、社会のありようの変化を反映したものです。ですので、昔の様に兄弟がたくさんいる社会に戻ることはないと思います。その代わり、生まれてきた子どもたちを、大切に育てる社会に変わってきていると思います。子育ては親だけの責任ではなく、社会全体で子育てを支援し、子育てしやすい環境作りが社会の役割である時代だと思っています。

日本の社会は建前では子どもを大事にしているといいながら、子どもを中心には考えられていないと感じる場面が少なくありません。保育施設の建設に近所から反対運動が起こったり、混みあった電車にベビーカーで乗ることで論争が起こったりする社会ですので、子育ても容易ではありません。やはり、大人の声が強い社会だと思います。

大人は理屈で、正しい正しくないといった議論をします。子どもには、その様な理屈は通りません。私自身も覚えがありますが、「いやだ」と思ったら「いや」でどうしようもなくなり、親にしかられたりするわけです。そこで諦めることを覚えたりしていきます。不合理は子どもの本質で、そこも子どもの可愛いところだと思います。

子育てをするご家庭の子どもとの生活は、楽しいこともあれば大変なこともあります。子どもたちとご家族の笑顔のためにも、私たち病院も含め社会全体で子育てを支えられればと思います。今育っている子どもたちがきっと将来の日本を支えてくれると思います。

小児医療センターは、子どもたちとご家族を支援する役割を担っております。特に、難しい病気等で当センターを受診される方も多いため、難しい状況にあるご家族も含めたケアを心がけております。私どもは、子どものプロフェッショナルとして引き続き地域に貢献をさせていただきたいと考えております。昨今の医療現場を取り巻く環境は日々厳しさを増しており、実際には至らない点も多くあるかとは思いますが、スタッフ一同、知恵を絞りながら、当センターをご利用の皆様の笑顔が増える様に、引き続き頑張らせていただきたいと思います。

埼玉県立小児医療センターだより 第31号 ご案内

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| ○ 診療部門紹介 血液・腫瘍科 …………… 2 | ○ 第10回地域連携懇談会開催のご報告 …………… 6 |
| ○ 診療部門紹介 小児歯科 …………… 3 | ○ 祝日開院日のお知らせ …………… 6 |
| ○ 看護部門紹介 11A病棟 …………… 4 | ○ 医療機関の皆様へ 受診のご案内 …………… 6 |
| ○ コ・メディカル部門紹介 栄養サポートチーム …… 5 | |

診療部門紹介

血液・腫瘍科

こ かつ よし
科長 康 勝 好

○診療内容

血液・腫瘍科では、小児に発生する全ての血液疾患、悪性腫瘍の診療を行っています。「貧血がある」、「出血が止まりにくいかも」、「首にしこりがあるががんじゃないか心配」といった、よくある症状について専門的な立場から診療を行っています。重大な病気の診断につながる場合はもちろん、心配ない結果であったとしても患者さん・ご家族の安心につながれば十分意味がありますので、どうぞお気軽にご紹介ください。初診は予約の制限はなく、前日までにお電話いただければ平日午前中いつでも受け付けます。緊急の受診が必要な場合はもちろん24時間いつでも対応させていただきます。

○小児がん拠点病院として

当センターは平成25年（2013年）2月に全国に15ある小児がん拠点病院に指定されました。これまでの小児がんに対する診療実績と教育支援などの患者さん・ご家族に対する支援体制が評価されたためです。小児がんセンターを開設して、埼玉県内の小児がん患者さんに対して国内最高レベルの診療を行うことはもちろん、広く関東甲信越地域の再発・難治の小児がんの患者さんの受入に力を入れています。

○臨床研究、治験への取組

小児の血液疾患、がんの治療はずいぶん進歩してきましたが、まだまだ十分とは言えません。当センターは日本の患者さんたちによりよい治療を届けるために、新しい治療を開発するための臨床試験や新しい薬・治療法を国内で使えるようにするための治験に取り組んでいます。日本小児がん研究グループ（JCCG）の臨床試験への登録数は日本一で、治験も国際共同治験を含めたくさん行っています。このような取組によって、例えば最も多い小児がんである急性リンパ性白血病の治療率は約90%と世界最高レベルになりました。

○最先端の治療を支える患者さん支援

小児がん相談支援センターを設置しており、医療ソーシャルワーカーや看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリストなどが、お子さんご家族の療養生活の不安や負担をより少なくするために、様々な制度のご紹介や、生活上のご相談をお受けしております。

最近6年間の診療実績

（初診実人数）

	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)
造血器腫瘍	53	55	61	52	63	49
（内 ALL）	23	25	26	23	21	21
固形腫瘍	36	34	56	49	42	45
造血細胞移植実施数	20	25	27	42	25	34



〈スタッフ一同〉

※撮影時のみマスクを外して撮影しております。

＜スタッフ紹介＞

科長兼小児がんセンター長：康 勝好
副部長：荒川 ゆうき
医 長：森 麻希子、福岡 講平、大嶋 宏一、
三谷 友一、本田 護
医 員：上月 景弘、稲嶺 樹、高田 啓志、
加藤 優、飯島 将由、目黒 麻里子

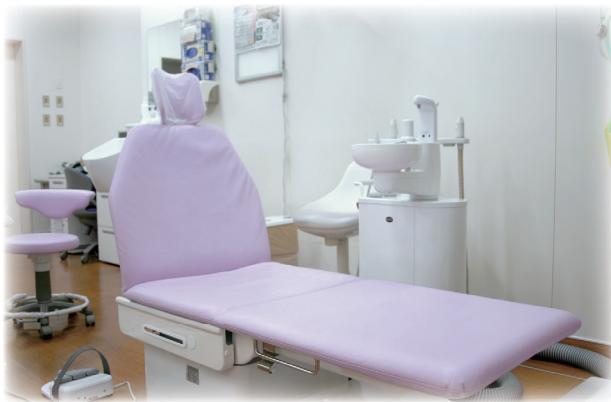
診療部門紹介

小児歯科

たかはし やすお
科長 高橋 康男

小児歯科は主に有病児・障害児における口腔の発育に携わっています。私たちの究極の目標は子どもたちを健全な永久歯列へ導くことです。そして、それを妨げるう歯の発症、悪習癖、咬合異常など様々な事象に対し、的確に診断、予防又は処置を行うことが私たちの役割です。診療内容も健常児とかけ離れてはならず、そのため、手技・知識とも高いレベルが要求されます。

当科では患児本人、保護者、医療提供者が協力し合って患児の口腔の健康に寄与していきたいと考えております。



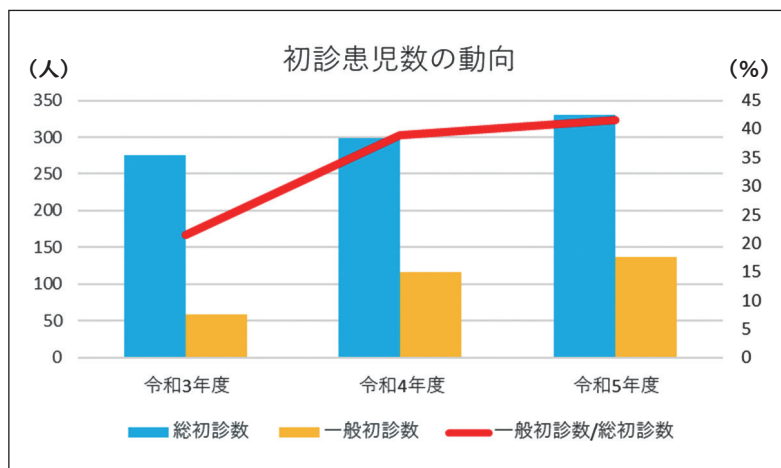
明るい診療室



泣く子も笑顔でお迎えします♡

令和3年度（2021年度）から一般初診外来を開始いたしました。地域の歯科病院で何らかの理由で治療が難しい多くの患児が当科を訪れています。

また、令和5年度（2023年度）から歯科衛生士らによる定期的な病棟訪問が開始されました。まだ慣れない点も多いかと思いますが、温かく見守ってください。



病棟訪問に向かう歯科衛生士

看護部門紹介

11A病棟

看護師長 伊藤 悦子
いとう えつこ

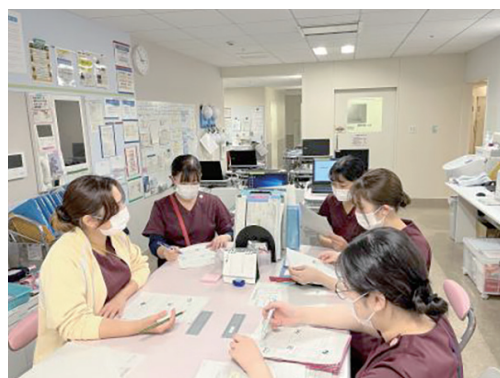
11A病棟は、主に感染免疫・アレルギー科、総合診療科、消化器・肝臓科、神経科の患者さんが入院している内科病棟です。乳幼児期から学童期のお子さんを対象としています。感染免疫・アレルギー科では川崎病や自己免疫疾患の患者さん、総合診療科では呼吸器など在宅での医療的ケアが必要な患者さん、消化器・肝臓科では消化管アレルギーなど内視鏡検査が必要な患者さん、神経科ではてんかんや痙攣のコントロールが必要な患者さんが入院しています。

病床は全部で28床あり、半分以上の16床が個室になっています。常時陰圧がかけられる個室が4部屋、等圧と陰圧を切り替えられる個室が2部屋あります。そのため、令和2年（2020年）4月から令和5年（2023年）5月までCOVID-19感染症対策病棟として、陽性患者の受入れを行いました。現在も、感染症対策病棟の役割を担い、標榜の診療科に関わらず、発熱や嘔吐など感染症状がある患者さんの緊急入院を受け入れています。スタッフは感染拡大防止に細心の注意を払いながら、患者さんが個室での治療でも寂しくないように、日々看護に当たっています。

更に、令和6年（2024年）9月から、今後の新興感染症に備え、6部屋を陰圧へ切替え可能な個室にするための工事を行っています。工事終了後、陰圧管理が可能な個室は12床になります。感染対策に優れた職員の育成を図り、新たな開設に向け準備を進めています！！



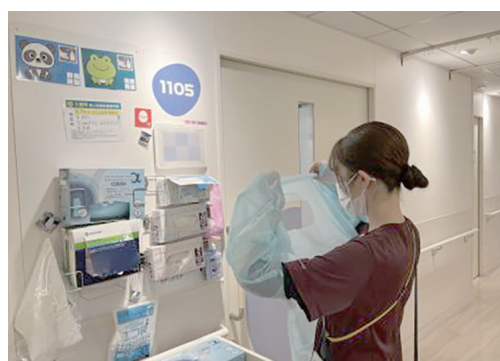
季節ごとに保育士が壁を可愛らしく飾ります。



カンファレンスを開いてみんなで話し合い
情報を共有します。



スタッフは明るく元気いっぱいです。



感染対策が必要な個室では个人防护具を着用します。



コ・メディカル部門紹介

栄養サポートチーム

(Nutrition Support Team : NST)

委員長 南部 隆亮 / 委員 みうら あきこ
三浦 明子



栄養サポートチームは、栄養管理を通じて疾患の治療や発育、発達を支えるチームとして平成20年（2008年）7月に活動を開始しました。小児は年齢や体格、病態によって必要とされる栄養量が大きく変化します。また、小児の栄養では発育・発達も重要な要素です。お子さん一人一人に合わせた最良の栄養支援が行えるNSTを目指しています。

<主なNST活動>

①栄養評価

入院時に栄養スクリーニング兼栄養管理計画書を用いて栄養評価を実施します。栄養不良と判定された場合は2週間後、良好な場合でも4週間後に再評価を実施し、栄養不良の場合、病棟スタッフと情報共有し、NST介入へつなげるようにしています。

②NST回診

担当医からの依頼制とし、毎週月曜日にカルテ回診を実施します。隔週で病棟を訪問し依頼医との連携を取りながら栄養介入を行っています。

③NSTカンファレンス

栄養再評価で栄養不良判定となった場合、NSTメンバーで情報を共有し、カンファレンスを実施し栄養モニタリングをしています。必要に応じ、主治医へ栄養介入の必要性も提案しています。

④NSTコンサルテーション

医療スタッフからの栄養に関する質問についてチームメンバーで随時対応しています。

⑤NST勉強会

当センタースタッフ向けに栄養に関する勉強会を企画・運営し、栄養療法の啓発を行っています。

また、チームメンバーの知識向上のため、抄読会、栄養補助食品や体成分分析装置(In Body)などの勉強会も実施しています。

<チームメンバー>

病院長、副病院長、医師（TNT^{*}研修終了医）
看護師（各認定看護師・病棟師長）
管理栄養士（NST 専門療法士）
薬剤師（NST 専門療法士）、臨床検査技師
理学療法士、事務局職員

*TNT・・・医師のための臨床栄養に関する教育プログラム



回診風景



In Body勉強会

<令和5年度（2023年度）実績>

- ・栄養管理計画書作成数
9,659件（入院時 8,069件、再評価時 1,590件）
- ・NST回診 46回（依頼 18件、延べ回診人数 344人）
- ・NSTカンファレンス 22回、95件
- ・栄養コンサルテーション 134件
- ・NST勉強会
第1回：センタースタッフに伝えたい食物アレルギーについて
第2回：褥瘡危険因子の再評価によるケアの変化
－日頃の観察・勘をケアに反映する－
第3回：センターで利用できる栄養補助食品のすべて



<NSTメンバー同（南部委員長前右から2番目）>
NSTを手文字で表してみました！

※撮影時のみマスクを外して撮影しております。

第10回地域連携懇談会開催のご報告

令和7年2月13日（木）小児医療センター講堂にて第10回地域連携懇談会を開催しました。第1部の講演会では「小児疾患の診断と治療の再確認」をテーマに代謝・内分泌科、形成外科の科長が講演を行いました。また、第2部の懇談会では日頃よりお世話になっています地域の先生方や関係機関の皆様へご挨拶ができました。

今後も顔の見える連携作りを大切にし、皆様からの期待に応えられますよう努めてまいります。

地域連携・相談支援センター
紫藤 直美



お知らせ

以下の休日は通常どおり
外来診療を行います。

5月6日 火

こどもの日の振替休日

9月23日 火

秋分の日

11月24日 月

勤労感謝の日の振替休日

* 予約電話の受付も通常とおりです。
* 令和8年（2026年）1月には
祝日開院はありません。

医療機関の皆様へ 受診のご案内

①患者さん（ご家族）からの予約

紹介元医療機関

紹介状
（診療科が明記
されているもの）

患者さん
予約の
電話

予約専用電話

初診受付時間 14:00～17:00（土日祝日除く）
再診受付時間 9:00～17:00（土日祝日除く）
一般外来 ☎048-601-0489
保健発達部門 ☎048-601-2165

患者さん
来院

受診当日にお持ちいただくもの

- ①マイナンバーカードまたは保険証
- ②医師の紹介状
- ③母子健康手帳
- ④医療券（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からの予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

緊急診療 （当日診療）の場合

電話交換手へ
緊急性があることをお伝えください
（365日24時間対応可能）

小児医療センター 代表電話
☎048-601-2200

- 当日の受診ではないが早期診療が必要な場合
- 該当する診療科が不明確な場合

電話交換手へ
相談内容をお伝えください
受付時間（9:00～17:00/土日祝日除く）

診療科が明確な場合はその「該当する診療科
医師」へおつなぎしますのでご相談ください

休日・夜間、又は診療科が不明確な場合は
「救急診療科医師」へおつなぎしますので
ご相談ください

「地域連携室」が対応します
現在の症状が分かる診療情報提供書をFAX
でお送りください
調整後、ご連絡します
FAX番号：048-601-2237

病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- ・JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
- ・JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
- ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
- できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

（センター敷地内は全面禁煙となっておりますので、ご協力をお願いいたします。）



当センターHP

埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200（代表） Fax▷048-601-2201
E-mail▷scmc@saitama-pho.jp
U R L▷https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html

埼玉県立小児医療センターだより第31号
令和7年（2025年）3月発行
編集・発行 埼玉県立小児医療センター